



よい子 つよい子 できる子

新井小学校たより 平成27年度2月号 平成28年2月12日
HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

「大人になる」ということ

校長 金子 博信

1/21(木)に4年生の「1/2成人式」が行われ、10歳の節目を祝いました。大勢の保護者の皆様方からもご参観いただき、ありがとうございました。1/2成人式では、子どもたちは、自分のこれまで10年間の成長を振り返り、将来に向けての希望や決意、そして家族への感謝の気持ちなどを、決意文にまとめて発表してくれました。私も、各教室を回って、子どもたちの決意表明を聞かせてもらいましたが、どの子も自分の思いを堂々と発表していました。中にはノー原稿で発表する子もいて、読み終わった後の引き締まった顔付きが印象的でした。

・・・(前略)・・・

ぼくは、将来薬ざい師になりたいです。ぼくは、小さい時からよくかぜをひいて病院に行っていました。その時薬ざい師さんは、苦しめない薬を作ってくれました。とってもうれしかったです。それで、薬ざい師になりたいと思うようになりました。薬ざい師は、薬局や病院に勤めて、医師の指示に従って薬を調合します。命に関わる仕事です。薬ざい師になるためには、高校を卒業した後、大学の薬学部に入って勉強します。大学は6年間も勉強します。それだけおぼえることがたくさんあるのだと思います。そして、薬ざい師国家試験を受けます。この試験に受からなければ薬ざい師にはなれません。勉強をたくさんして薬ざい師になりたいです。そして、まちがえないように薬を調合したり、患者さんに気を配ったりできるようになりたいです。

・・・(後略)・・・

他の子どもたちもこれと同様に、これまでの自分の体験などから将来に向けてのしっかりした希望と展望を述べていて、たいへん感心しました。子どもたちには、ぜひ自分の夢の実現に向かって情熱をもち続け、夢を叶えてもらいたいと思いました。

1/11(月)の成人の日のテレビ報道で、「成人式」において、場違いなど派手な衣装を身に着け、傍若無人に振る舞う新成人の姿を見て愕然としました。こんなことでしか自己主張ができないのかと思うと、怒りを通り越して悲しく思いました。子どもたちに何と説明したらいいのでしょうか。このような無頼な行動をとる新成人はごく少数だとは思いますが、20歳(はたち)になっても大人になりきれていない若者の姿に我が国の制度や教育の在り方、そして「成人式」の是非やテレビ放映が子どもに与える影響などについて考えさせられました。

世の中には、成熟している子どももいれば、未熟な大人もいます。欧米の人たちからは日本人は、年齢だけの大人が多いと言われています。では、「大人になる」とはいったいどういうことでしょうか。禅僧”道元”が残した「正法現蔵」の最終巻に「八大人覚」という書があります。これは大人になるための八つの教えが書かれたもので、「少欲」「知足」「楽寂静」「勤精進」「不忘念」「修禅定」「修智慧」「不戯論」の八項目があります。1つ1つの内容については、紙面の都合上、割愛いたしますが、この8項目を理解して修行(実践)し続けていくことによって、「本物の大人」に近づいていくことができると述べています。しかし、これらのことをすべて実践し続けていくことは、禅僧でもない私たちが行うのは並大抵のことではありません。こうした理念を踏まえて、正しい行いを心掛けていくことが大切なのだと思います。

「正」という字は、「一を以て止む」と書きます。これには「自分を抜きにして、そのものになりきる」という意味があります。つまり、正しい行いをすると言うことは、「人のために、自分のできることをする」ということだと思います。人は20歳になったから大人なのではなく、頭と心と体を鍛え、正しい考えと行いを身に付けて、自立していくことが大人になるということではないかと思っています。子どもたちには、そのことを大切にしたいと願っています。

体つくりの取組

◆◆体力テスト結果からみた体力レベルの現状◆◆※全国の平均を50としたときの比較

項目名	体力要素	全国平均値との比較											
		男子						女子					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
・握力	筋力	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—
・上体起こし	筋持久力	—	—	▲	▲	▲	○	—	▲	○	○	○	○
・長座体前屈	柔軟性	—	○	○	—	—	○	○	○	○	▲	○	▲
・反復横とび	敏捷性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・シャトルラン	全身持久力	○	—	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
・50m走	スピード	○	▲	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	○	○	—
・立ち幅とび	筋パワー	—	—	○	—	—	○	○	○	○	○	○	▲
・ボール投げ	巧緻性	▲	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲



なかよし友だちチームで行った体力テスト。高学年のリードで、計測がスムーズに、そして、教え、励まし合う姿が見られました。

- ・・・全国平均より+0.5%以上
- ・・・全国平均より±0.5%以上
- ▲・・・全国平均より-0.5%以下

○当校の実態としては、各学年では、「握力」「反復横跳び」が全国平均を上回りました。「ソフトボール投げ」は、昨年より向上しています。しかし、各学年や男女別で差があります。学校全体では、「50m走」が全国平均を下回っています。

○男女とも総合判定結果が高まってきていますが、E判定になる子どもが増えてきています。この傾向は、全国的な傾向と似ており、その要因の一つが運動する子どもとしない子どもの二極化であると考えられます。運動好きな子どもが増えるように体育授業の工夫をし、子どもたちが楽しんで体を動かすことができるよう取り組んでまいります。

〈運動会〉



〈体育授業〉



〈マラソン大会〉





よい子 つよい子 できる子に! 元気! あらいっ子



新井小学校では、昨年度までの「元気アップ週間」「読書週間」「メディア接触コントロール(新井中学校区)」を融合し、その名を「あらいっ子週間」としました。生活習慣がきちんとできて、読書が好きな子ども、「あう~、いい子!」からの命名です。お子さんの望ましい生活習慣の定着に向けて、家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。



**メディア接触時間は、
「平日、休日とも 1日2時間まで!」**



テレビ、ゲーム、パソコンやタブレット、携帯電話やスマートフォン、家庭で時間を決め、読書や家族団らんの時間にしてください。

**寝る前の歯みがきをきちんとし
決めた時刻までに布団に入ります!**

朝ごはんをバランスよく、しっかり食べます!



ダラダラおやつはやめましょう。
早寝・早起き・朝ごはん
朝の余裕が必要です。



やっぱり大事なものは・・・



◆◆新井小学校の給食・食育◆◆

「食育」とは、食に関する知識と食を選択する力を身に付け、健全な食生活を送れるようになるための教育です。また、食べることは、知育、徳育、体育の基礎となるもので、誰もが元気であるために、「食育」は生涯にわたって大切な取組です。

(1) 身近な食育『学校給食』

子どもたちが学校で毎日楽しみにしている給食の時間は、「食育」の入口と言えます。給食は「空腹を満たすだけのもの」ではなく、適切な栄養の摂取、食への正しい知識と習慣の形成、社会性を養うことなどを目的としています。栄養バランスに配慮した献立をはじめ、地場産食材を優先して取り入れ、米は全て妙高市産のコシヒカリを使用しています。また、毎月19日は『ミヨーコーさん給食の日』とし、妙高市内のこども園・保育園、小学校、中学校、特別支援学校で、地域性にあふれた特色のある給食を実施し、子どもたちがふるさと妙高への愛着を深められるような献立づくりを目指しています。

(2) 親子ふれあい「マイお弁当の日」の実施

子どもたちは、お弁当作りの楽しさや達成感を味わったり、おうちの方への感謝の気持ちを感じたりするなど、体験を通して豊かな学びができました。

1月の「ミヨーコーさん給食の日」



ごはん アルビ牛乳 鶏肉のごま焼き
野沢菜炒め 芋がらかす汁

特別支援教育 ～「心の理論」について～

私たちは、いつも子どもたちの行動について「どうして、そうなったのだろう。」「何か理由があるのかな。」という目で見るとしています。時には、怒りたくなるような現象を目にするのですが、頭ごなしに怒っても問題はすぐに改善しないことが多いのです。子どもの行動には、「心の理論」が大きく影響していると言われていています。その「心の理論」について少し説明させていただきます。

・・・要するに、私たちは日常生活で「あっ、あんな風にB君に言ってしまった。B君は傷ついただろうか。」とか、「僕、〇という行動をしようと思うんだけど、人は『いけないことだ』と評価するかな?」とか、いつも自分にフィードバックをかけながら、他者がどう見るといった「他者の目」を気にしながら生きているわけです。これが、「心の理論」という言葉で表される脳の働きです。この働きを多くの方は自動的・瞬間的にしているわけです。

「心の理論」が明確になるのは、4から5歳頃と言われます。親戚のおばさんが持ってきたお菓子を見て、「僕これ嫌いだ」とおばさんの目の前で言わなくなるのが、大体この年齢と言われます。とりあえず、「おばちゃんありがとう」と社交辞令を言えるようになっていでしょう。もちろんもっと早くから、「言うてはいけないのだな」と気づく人もいでしょう。一方、4、5歳になっても上手く気づけないお子さんもそれなりにいます。これを早くから身につけていると、自己中心的な振る舞いにならないわけですが、「子どもらしくない。気を回しすぎる」と言われたりするかもしれませんね。子どもの自己中心的で自由奔放な言動は、大人を楽しませてくれるものですから。

この「心の理論」システムが4、5歳レベルに達していないお子さんは、自己中心的な振る舞いになります。「お友達が持っている玩具を、『使いたい』という自分の思いに従って悪気なく取ってしまい、友達が泣いてしまう」場面を考えてみます。取った後で平然としているお子さんから、泣いている友達を見て戸惑うお子さん、泣いたので玩具を返すお子さんなどなど、いろいろな行動がありうるでしょう。そのお子さんがどの程度、他のお子さんの心を読もうとしているかが、行動から見えてきます。

なぜ、こんなことを書くのかと言うと、子どもの不適切な行動を見た場合、お父さんお母さんに一方的に怒って欲しくないからです。なぜならば、「全ての行動には子どもなりの理由がある」のであり怒ってもすぐにはわかってもらえないからです。別の言い方をすると、ずれた行動をしている場合には、ずれるべくしてずれた理由があるのであり、子どもがその行動に至る上で採用した、それまでに学んだ理論・枠組みや、その時に応じた感情があるのであり、それを修正しておかないと再度同じことを繰り返すでしょう。だから、子どもに対し怒っても、怒っている理由を説明しない限り子どもに理解してもらえないことは結構あるのです。行動が適切であったかどうかの理由を説明してあげないと、上手くいかないことが起こりうるのです。もちろん成長を待たないと、説明内容の理解がなされない場合もあると思います。

ぜひ、一呼吸おいて、「なぜだろう」と考え、「ああ、まだわかっていないのだ。教えてあげよう」との対応をお願いします。

出典：「子育て親育ち とどけ 親と子への応援歌」東條 恵 著

(新潟県はまぐみ小児療育センター所長)

私たち大人も人間ですから、日々いろいろな感情に左右されて生きています。ですから、いつも冷静に対応できるとは限りません。しかし、このような「心の理論」を知っていれば、少しは冷静に対応できるのではないのでしょうか。少しでも、多くの方のお役に立てれば幸いです。

新井小学校 特別支援コーディネーター 引場 陽子

